

「安心安全な社会とは～治安維持と選挙の観点から～」

熊本県立熊本北高等学校 普通科(文系)・英語科
総合的な探究の時間 E3班

1 研究の動機

世界は今、様々な問題に直面している。ロシアのウクライナ侵攻や、日本国内では安倍元首相が銃撃される事件が発生している。治安の維持と選挙による国民の政治参加は安心安全な社会の形成には必要であり、これから選挙権を持つ私達にも関わることである。

「安心安全」とは何か。安心は心配・不安がなくて心が安らぐこと、安全は安らかで危険のないこと、物事が損傷したり危害を受けるおそれのないことを意味しており、「安心安全」とはそれら2つを繋げ合わせた言葉であり極めて心配・不安がなく心が安らぎ、極めて安らかで危険のないことを意味している。安心安全という言葉はとても抽象的な言葉であり、何をもって安心で安全と呼べるのか定義づける必要が有る。

そこで、持続可能な開発目標に有る「平和と公平をすべての人に」に焦点を当て、治安維持と選挙の観点から探求していく。

2 研究の方法

本研究の目的は、安心安全な社会における選挙と治安維持の関係を明らかにすることである。

具体的には、研究課題を以下のように設定することとする。第一に、国内や海外問わず国民の政治参加、いわば選挙が治安維持にどのように影響するかを明らかにする。第二に、国内でニュースに取り上げられるような大きな事件が日本社会にどのような影響を及ぼすのかを明らかにする。これら2つを6つの課題に分け、研究する。

本研究は日本国内で発生した事件や年代の件数という治安維持の観点から、海外の選挙と日本の選挙の国民の政治参加の観点から安心安全な社会を研究・調査を行う。

第一の課題に対しては、インターネットや本を用いて、海外、主に先進国と呼ばれる国々の選挙の仕方や政治体制について調査し、調査したものを参考に安心安全な社会になる仕組みを追求していく。

第二の課題に対してはインターネット等を使い日本の独自の選挙制度を調べ、どのように安心安全な社会に関係しているかまとめる。

第三の課題に対しては、インターネットを使い、日本と海外の選挙の投票率の差や日本の投票率が低い理由を調べ、安心安全な社会に繋げて考えていく。

第四の課題に対しては、インターネットを使って日本で発生した大きな事件を、事件の原因を中心に調べ、その当時の選挙の状況を比較していきながら調べていき、これからの社会に活かしていけることを検討し、安心安全な社会につなげていけるように考えていく。

第五の課題に対しては、インターネットを使用し、熊本の防犯条例について調べ、市民と自治体の関係性を調べる。

第六の課題に対しては、インターネットや犯罪にまつわる本を使って年代別の犯罪件数や近年の犯罪状況を調べ、より安心安全な社会になるように考えていく。

以上を踏まえて、選挙や治安維持が安心安全な社会を作るためにどのように影響

するか明らかにする。

3 研究の結果

4 研究の考察

今回の研究から、政体や選挙の投票率が犯罪率に直接的に関係することはないが、選挙で議員が掲げる公約や各自治体の防犯条例と市民の協力が、間接的に犯罪を抑制し、犯罪率を低下させている要因と考えられる。また、日本の選挙方法は互いの弱点をカバーし合う強固な体制をしき、不平等にならないようになっていると思われる。日本の選挙の投票率は、60代以上が半数を締めており、若年層の割合が低いことがわかる。これからは若い世代に興味を持ってもらえるように小学生などの幼い内から選挙に関する教育を施し政治的関心を持たせるなどの取り組みが必要だと思われる。そして、日本の選挙に対して重大な事件は多大な影響を与えており、起こりうる可能性にはしっかりと対策をし、発生してしまった事件にはアフターケアをしっかりと施して選挙の投票を行うことで、国民が安心して政治に参加することができると考えられる。年代別の犯罪では、高齢者に因る窃盗の罪が増え、少子高齢化に因る年金の減少が顕著に現れている。少子高齢化は現代日本における重大な問題であり、政府の支援や自治体と市民の連携が求められると思う。これらを踏まえると、より安心安全な社会に繋がれると考えられる。